

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500024		
法人名	医療法人社団孔和会		
事業所名	グループホームあかね苑		
所在地	熊本県天草市久玉町5716-9		
自己評価作成日	平成23年8月14日	評価結果市町村受理日	平成23年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号
訪問調査日	平成23年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に母体である病院と併設しており、看護師の配置もあることから病院との連携も密に図っている。日常の健康管理のサポートや、緊急時にも迅速に対応できることで、職員・家族共に安心感と心強さを感じている。看取り介護の経験もあり、法人内で勉強会も積極的に取り組んでいる。また、母体の理学療法士、言語聴覚士等の専門職と相談しながら、入居者様の生活自立を目指し、ケアに日々取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者にとって慣れ親しんだ“海”を目の前に建つホームは、入居者や代表者自らの早朝の散水によりオリーブをはじめ生き生きとした木々が迎えてくれる。海岸での魚釣りや海辺の散歩、ホームが自主的に行っている職員と海を眺めながらの清掃活動(空き缶やごみ拾い)など入居者の“これまで”と“今”を大切にしたい取り組みはその方の自然な笑顔を引き出している。今年度法人内異動により職員の入れ替わりが行われたが、全管理者の培った入居者や家族との信頼関係を大切に、新管理者を中心に心新たに入居者のケアにあたっている。初めての取り組みとなった“夏まつり”はあいにくの天候や他の地域行事と重なり決して多くの地域参加には至っていないものの、今回の取り組みは大きな自信となり職員のモチベーションアップに繋がっている。法人の協体制と併せホームの独自性を活かした“あかね苑”の今後に期待が持たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入居者様に対する想いを理念として、それを念頭に置き、常に入居者様に接するようにしている。また、毎日の呼称と目立つ所に掲示する事で理念の認識を促している。カンファレンスや申し送り時で理念について話す場を設け、日々のケアの見直しをしている。	入居者が笑顔で過ごせるように、“今”を大切にした支援に努めることを柱とし、四項目の理念には住み慣れた地域の中や家族との結びつきを大切に支援していく事を掲げている。いつも理念に立ち返ることができるよう、毎日の唱和や掲示、会議などで確認を行い共有している。又、運営推進会議の中で代表者より地域密着型事業所のあり方について説明を行い理解・協力を繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域文化祭や、どんど焼きには、毎年参加している。地域のグランドゴルフ大会にも「あかね苑杯」を作って頂き参加している。また今年、夏まつりを開催し、入居者様と地域の方々との交流ができるいい機会となっている。地域の行事にもこちらから、出向いて行くことで、地域の事業所として支えて頂きながら、地域交流を図っている。	文化祭やどんど焼きをはじめ地域行事への参加や近隣のスーパー・商店の利用、入居者と一緒に自主的なホーム周辺の清掃活動など地域との繋がりを大切にした活動や交流に努めている。今年度職員の思いを一つに、地域の方への案内を行い一回目の夏まつりが開催された。あいにくの天候で参加者の数は少なかったようであるが推進会議メンバー・地元職員の家族の参加も得られた。	夏祭りの開催は、職員の意識の向上や自信に繋がったと思われる。今回の反省をもとに、地域の参加者を増やし、継続したホーム行事の一つになっていくことが期待される。又、管理者は地域交流に繋がるボランティア受け入れを充実させたいとしており、その取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、地域の主軸となる方を対象に、認知症についての理解・対応の仕方などの説明を行っている。また、表の掲示板には認知症を地域で支えていこうというメッセージを掲示し、啓蒙活動に努めている。9月には自宅で介護をされているご家族、地域の方を対象に介護教室を開催し、認知症について説明を行う予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑での取り組み状況について報告し、ご意見を頂くと同時に、御家族を対象としたアンケート調査や外部評価の報告も行っている。苑の行事にも参加して頂き、そこでの意見や地域情報等もお聞きし、今後の取り組みに活かすようにしている。	定期的開催されている会議は、近隣の公的な会場で開催しているが、会議前後にホームを訪問してもらい入居者の様子やホーム内の雰囲気などを確認してもらっている。昨今、認知症に対する理解も深まっているが、今後もホームや包括支援センターが協力し相談窓口の充実や、正しい知識を発信し、地域全体で認知症本人や家族を支えていく事を確認している。	今後はわかりやすい議事録の記入や、参加されていない家族への開示方法を検討することで、会議への理解や関心が深まっていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールで最新の情報のやり取りをしている。また、電話で日常のケアについての相談や報告も行っている。運営推進会議には地域包括支援センターの担当の方にも出席頂き、ケアサービスにおける具体的アドバイスを頂くと共に、地域が抱える課題等情報を頂いている。	市の担当者とは介護保険や流行性疾患などの情報交換を行う他、ホーム内の現況報告やケアについての相談・アドバイスを受けている。又、管理者は介護教室で講師依頼を受けるなど地域貢献に努めており、今後も役所に足を運ぶ機会を設け、情報を共有するなど関係を深めたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	孔和会全体で行っている介護事業所研修会への参加と共に、マニュアルに沿った対応を心掛けている。拘束は身体だけでなく言葉による拘束もあるという意識の元、実際のケアの中で拘束につながる声かけ等が行われていないかカンファの中でも話し合いを行っている。玄関は6時から21時まで施錠しないで出入りができるようになっている。	身体拘束に対するマニュアルの整備や、法人で開催される研修会に参加し共有に努めている。又、会議の中でも、言葉による拘束についても事例を挙げながら、職員間で自分のケアについて振り返っている。玄関にセンサーは設置されているがセンサーに頼ることなく職員は見守り支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	孔和会全体の勉強会で認知症実践者研修修了者が講義を行い、虐待防止マニュアル等で勉強し意識付けをしている。また、外部研修にも参加し虐待防止への意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	孔和会で行っている介事研修において、県の権利擁護推進員の研修修了者が中心となり勉強会を行い、苑の職員も参加する事で理解を深めるようにしている。また、職員には社会福祉主事がおり随時相談できる体制である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書と重要事項に添って説明を行い、苑の対応など納得して頂いたうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置し記載して頂けるようにしている。家族会等でアンケート調査や、座談会にて頂いた意見を素直に受け止めカンファレンスを開き検討しケアの見直しを行っている。頂いた意見は施設長に直ちに報告し、家族の方には結果報告を行っている。また、運営推進会議での報告も行っている。	意見箱の設置や家族会をはじめ、面会や電話連絡の際も意見や要望を聞き入れている。入居者の要望については日常の関わりの中や家族から情報を得ている。又、ホーム内外の相談窓口について入居時に説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で、職員からの意見を聞く場を設け、その意見に対し、改善すべきところはすぐにでも改善している。また、個別の目標面接の機能を利用し、職員の意見や提案を聞きサービスに反映させている。	カンファレンス時や日々の申し送りの中でも運営に関する意見を聞き入れる他、管理者は日ごろより職員の健康管理や働きやすい環境に努め、個人の面談を行っている。今年度は職員の発案により初めての夏まつりが開催された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の管理者会議において、各部署の実績や努力等を把握するとともに、評価表チェックによる状況把握、気になる職員との個別面談も実施している。また、年1回の方針発表にて、各部署の毎年の目標を発表し職員全体の周知に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を職員通用口へ掲示し、また、朝礼でも呼びかけている。参加した研修の報告書は、目につくところへ掲示し、また研修報告の機会を設け周知に努めている。認知症研修には、毎年計画的に実践・リーダー研修へと受講。また、CM、介護福祉士への支援を先輩がフォローしていく体制づくりがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の訪問もあり、情報交換を行っている。また、グループホーム連絡協議会には毎回参加しており、ネットワーク作りやお互いのサービス向上に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、ご本人または本人の代弁者である御家族の方から情報を頂き、御本人の今までの歴史を把握し、良い人間関係と信頼関係が築けるようにしている。入居のめどがついた時点で交流を図り、他のサービスからスムーズに移行できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問を行い、御家族が困っていること、また、希望・要望を聞くようにしている。苑での生活の概要を説明したり、実際に苑の様子を見て頂くよう見学をすすめており、安心してご家族を入居させられるよう、信頼関係を深める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族の方とよく話し、今何が必要かを見極め、他の居宅サービスの紹介や手配のお手伝いをしている。必要に応じて、孔和会のネットワーク会議で相談し、適切な支援が図れるようにしている。CMとも連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯ものたたみを職員と一緒にいき、残存機能を生かし、できることを継続できる支援に努めている。また、苑庭にて野菜作りも行っており、今まで培ってこられた知識やコツを教えてもらう場として役立っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊等を通し、家族と一緒に過ごして頂けるような働きかけを行っている。また、本人が安心して生活していく為に家族の方の協力が必要な事を随時説明したり、家族会の中でも、家族の方と一緒に過ごすことの大切さを理解していただけるよう説明を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や買い物、自宅近所へドライブに行く事で、馴染みの人たちとの関係が継続できるように努めている。また、以前利用されていたサービスへお連れし交流を図っている。	入居者がこれまで利用していた美容院や商店、介護事業所(通所リハグループホーム)へ出かけ馴染みの方と継続した交流や再会を支援している。又、家族と相談しながら親類・知人と会う機会や盆・正月の帰省を行っている。	今後も引き続き入居者の馴染みの人や場所とあわせ、馴染みの生活を継続して支援していくことが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないよう、職員が間に入り話題の提供やレクレーションの参加等への呼びかけをしている。入居者同士で、世話をする人される人の関係がスムーズにできるよう、席の配置や距離等の配慮を行い見守るよう必要に応じて支援するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族との交流は続いており、CMも含め情報交換を行いながら家族の介護負担の把握にも努めている。また、入院された方には面会に行き、家族の相談にもものようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で本人様の行動や言動から、本人の思いや希望の把握に努め、カンファレンス等で話し合い本人の立場に立ち、本人の思いが大切にできる支援ができるよう心がけている。皆様がお好きな食べ物等は一緒に作る機会を設けている。	入居者との日々の関わりの中や、筆談・訪問時の家族など個々に応じて思いや意向の把握に努めている。又、全職員で入居者一人ひとりの思いに応える支援に努める事ができるよう、ミーティングや職員間の日常の会話の中など情報を共有する機会を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、ケアマネ、入居前に利用していたサービスからの情報、また、知人・友人・親戚の方の面会があった時は、職員は会話の機会を持ち情報収集に努めている。頂いた情報をケアプランに生かしてこれまでの生活が継続できる支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昔からの習慣を大切に、継続できる支援をしている。生活の中で、本人様の有する能力の観察を行いケアプランに反映することで、新聞読みや花や野菜の水かけ等、できることが継続できるような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成した時点で担当者会議を開き、御家族への説明と共に、職員やかかりつけの医師の意見を聞きながら、本人にとって何が一番幸せかを家族を含め検討している。状態に変化があった場合は、カンファレンスを行い新たなニーズを作成しており、1ヶ月ごとに評価を行い見直しを行っている。	本人・家族の意向を踏まえ、医師・PT・栄養士・の意見、職員の思いや気づきを反映した介護計画は担当者より家族へわかりやすい説明が行われている。理念の柱である入居者の“今”を大切にしたい支援に繋がるよう、状態が変化した場合は本人・家族の意向に合わせ見直しを行ない現状に即した計画を作成している。又、職員がプランをより身近に感じられるよう、個々のケース記録に支援内容を抜粋して添付し、日々の記録と並行して取り組めるような方法をとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で、入居者の様子が詳しくわかるよう(経過記録、モニタリング、睡眠、痛みの観察用紙)を用い、随時書き込みを行っている。それを介護計画に役立て、また、用紙事態も職員の意見を取り入れ見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームのみの視点ではなく、言語聴覚士や理学療法士、作業療法士、管理栄養士等孔和会に属する専門職の意見を取り入れ、今その方に必要なサービスは何かを検討し提供するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のどんど焼きやグランドゴルフ大会、入居者の方が出品した文化展へ見学に行ったりと地域へ出向く機会を設け、その際の安全確保にも努めている。また、保育園やボランティアの方々の訪問を通し、地域の方々と交流の場となることで、楽しい時間が過ごせるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族のご意見を聞き、了解を得たうえで職員同伴のうえ、かかりつけ医への受診を行っている。受診時には、事前に生活状況、身体状況の情報提供を行っている。結果については、TELや面会時に御家族に報告を行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援することを入居時に説明している。現在全員の方を二週間に一回、法人の医療機関で定期受診を職員同行により支援し、専門医の受診については家族の協力が得られている。日頃の状況を把握している定期受診の職員同行は、本人・家族にとっても心強く安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場のナースや病院のナースとも連携を図り、hi日頃から相談・報告しながら利用者様が適切な受診ができるよう協力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、サマリーを活用し、情報提供を行い、面会を心掛け情報交換をナースや御家族と行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項にて説明を行い、家族会等にて聞き取りを行い話し合っている。また、運営推進会議にて地域の方々にも説明を行っている。ターミナルケアの勉強会も企画・実施し、スタッフの知識向上はもちろんのこと、メンタル面への配慮も行っている。	重要事項の中で、重度化や終末期の対応について説明を行ない、家族会や介護計画作成時などに本人・家族の意向を確認している。昨年度家族や法人医療機関の協力により終末期支援が行われている。入居者と一緒に過ぎてきた職員は、不安の中にも最後まで支援していきたいという思いも強く、今後も職員のメンタルにも配慮した職員研修の充実や家族との連携に努めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて勉強会を行っている。あわてず行動できるよう、消防署より人体模型を借り、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いのもと、火災訓練を行い、助言頂いている。また、消火栓ボックスを頂き職員で訓練を行い、火災時、早く消火できるように練習している。また、地震・水害の備蓄等は孔和会全体で検討している。	年二回の訓練を計画し、先月一回目が行われたが地域の方の参加は得られていない。災害対策については推進会議の中でも議題の一つとなり、地域の方の参加や、メンバーによる訓練の応援についても意見が出されている。又、消防団長が推進会議のメンバーであることは心強く、消火栓ボックスの設置に至っている。	地震や風水害・備蓄などについても検討されておりマニュアルに沿った職員研修や訓練・備蓄の実現が期待される。又、地域の方の訓練への呼びかけを引き続きお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のサインを早くキャッチし、失敗のないよう努め、トイレの声かけ等耳元で声かけを行う。人生の先輩という気持ちで関わらせて頂いている。	人生の先輩として尊厳を持った対応を心がけている。排泄の誘導や声のかけかた、日ごろより入居者の表情やしぐさから排泄のタイミングを逃さないように支援している。又、居室に入室する際のノックや声かけによる確認なども確認された。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の食べ物、飲み物、洋服の洗濯、入浴の希望を聞きながら、カード等を用いることで、意思決定ができる環境作りを行い、心地よい生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調の訴えに対して休憩等たずねている。レクへの参加等声かけし、自ら参加できるよう促す。外出時は、お気に入りの帽子や洋服を着て出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面台にて身だしなみを整えて頂き、必要に応じて、また本人の意思を確認し散髪を行う。また、家族とも日程調整し、行きつけの美容院に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、好みのものや、食器の工夫を行っている。本人の意思を確認しながら後片付け等行って頂いている。	法人栄養士の作成した献立を基本に、差し入れ食材などを活用しながら担当者によって調理され、入居者も食材購入や皮むき・下膳などできる事を一緒に行っている。一日は変わりご飯の日として、赤飯や炊き込み・栗ご飯など季節を味わう食事の提供や炊飯器を使ったおやつ作りは入居者に好評のようである。又、パン食が苦手な方へはご飯の代替やおかゆ・キザミ・とろみなど個々の嚥下状態に応じた食事支援である。	食事は職員も一緒に見守りや介助を行ないながら、会話も楽しまれており、音楽の選曲については検討が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からの献立を中心に提供している。食べられないときは、好まれるものや、ゼリー、ジュース等、食事量・水分量をチェックし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合った口腔ケアを行い、毎食後行っている。また、入れ歯の清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツを使用し、時間を見ながら声かけ誘導を行っている。また、プライバシーを尊重し、危険がない様に、見守りができる位置で、待たせて頂いている。	日中は布パンツの使用に努め、トイレ誘導や声かけを行ない全員トイレでの排泄を支援している。夜間もトイレ誘導やポータブル、安眠にも配慮しオムツなど個々に応じた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけにたよらず、牛乳やオリゴ糖、食物繊維のある食べ物等個々に支援し、水分摂取に気をつけながら提供している。また、腹部マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を聞きながら、その日の気分や希望に添って入浴して頂いている。また、季節感を感じて頂くため、柚子湯や菖蒲湯も楽しんで頂いている。	入居者の希望や体調を確認しながら、毎日の入浴や週三回～四回の入浴を支援している。昨年度リフト浴が設置されたことにより、入居者のゆっくりとした入浴や職員の腰痛軽減に繋がっている。	リフト浴の設置により浴室内のスペースのゆとりが多少失われる事から、浴室や脱衣所の整頓を行うことで、安全ですっきりとした空間に繋がっていくと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて、畳・ソファー・居室にて休息をしてもらったり、安楽な姿勢をとって休んで頂いている。また、室温調節や、照明にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の説明書は、すぐに確認できる場所に置き、目的や副作用、用法や用量について確認し、服薬支援を行っている。また、症状の変化についても経過記録に記載をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や野菜の水かけや収穫をして頂いたり、食器の片付けや茶碗拭き、洗濯ものたたみ等、本人に確認しながら、行っている。またドライブで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事では地域の方々に、協力頂いて参加してもらったり、家族の要望で鯉のぼり見学を行っている。散歩や苑庭でのお茶会、どらいぶにて外出を楽しんでいる。	日常的にホーム敷地内や海辺沿いを散歩し、定期的なホーム周辺の清掃活動など季節や天候、入居者の状態に応じ支援している。又、恒例化したどんど焼き・グランドゴルフ大会や祭りなどの地域行事にも家族の協力や運営推進会議の中で情報を得ながら参加している。その他魚釣りやかかし見学・花見、ドライブを兼ねて同法人の事業所訪問など、多くの外出支援が実施されていることが記録や聞き取りより確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお金から、希望があれば意思を尊重し嗜好品や日用品等を買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望や、家族からの電話があれば自由に話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	のれんや表札をつけ視覚で理解して頂くよう行い、行事や季節に合わせて飾りを変更している。	リビングや段上がりの畳の間には、季節の壁面や日常生活の写真が掲示されている。玄関の植物も季節感を味わいながら一緒に管理を行い、ホーム内に飾っている。入居者はテーブルや畳の間、ソファなどお気に入りの落ち着く空間でおもいおもいの時間を過ごしている。	庭先のデッキなども、家族の面会場所とし広報誌や訪問時に周知活用されることを期待したい。又、玄関からリビングがオープンになっており、センサーの音量に関しては検討が必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の好きな場所にて、ゆっくりと過ごして頂いたり、気の合う利用者様と畳やソファにて会話を楽しまれるような配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から、馴染みのアルバムや布団、座椅子を持って置いてもらっている。また、花が好きな方には部屋に花を飾って頂いている。	入居時に馴染みの家具や品々の持込を説明している。入り口にはそれぞれの貼り絵などの作品の掲示や居室内も換気をこまめに行かない、ベッドや布団使用などこれまでの生活やADLに応じた環境を支援することで居心地のよさに繋げている。	入居者の作品の掲示は、本人や家族にとっても楽しみや励みに繋がっていくと思われる。ADLの状態などにより作成が困難な方へも、職員の配慮やアイデアにより取り組みが行われる事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や名前を表示し、理解して頂いたり、布団やベッド等、残されている能力をつかいないながら、できる機能を低下しないよう工夫している。		